

一般質問

令和3年6月定例会

吉田 康弘

会派「誠流」の吉田です。最後の質問者になりましたが、よろしくお願い致します。質問に入る前に、ワクチン接種をはじめとする、新型コロナウイルス感染症対策にご尽力いただいている方々に感謝申し上げますと共に、大きな影響を受けておられる方々には、心からお見舞い申し上げます。一日でも早く、以前の生活が取り戻せるよう念じながら質問に入らせていただきます。一問一答方式で、通告に従い質問させていただきます。

小矢部市小中学校統廃合審議会の最終答申についてお尋ねします。
この小中学校統廃合という課題に対し、時系列に整理しておきたいと思います。

平成29年2月9日 議会 小矢部市公共施設等総合管理計画に対する意見書
公共施設の延べ床面積を3割削減

学校の統廃合は最重要事案 中学校は1校、小学校は3校

平成29年3月

当局 小矢部市公共施設等総合管理計画を策定

2045年までの30年間、社会情勢の変化や市民ニーズに変化が生じた場合は、必要に応じ適宜見直す。

中学校は1校、小学校は3～4校への統合を含めた検討
少人数学級の早期実現に向けた取り組みを進める。

平成30年5月28日 議会 小矢部市公共施設再編計画に関する意見書
平成29年提出の意見書を勘案するよう提言

平成30年6月

当局 小矢部市公共施設再編計画を策定

2016年から30年間とし、5年ごとに進捗確認、見直し
中学校については1校への統合を含めた検討、統合しない場合は前期に大規模改修を実施。小学校は3～4校

平成31年3月

当局 第2次小矢部市教育大綱を策定 **小中一貫教育の検討**
第7次総合計画の策定に合せ、総合教育会議において策定

令和元年12月

小矢部市小中学校統廃合審議会が最終答申

中学校は3校、小学校も3校と答申しています。

これまで中学校は1校を検討するとしていた課題に対しては、
「生徒数の推計では、約40年後に市全体で4～5学級の学校規模となると推測されることから、その時期に市全体で1中学校への統合を検討する可能性が生じる」としている。

質問1 統廃合審議会の開催内容、実施内容について紹介して下さい。

質問2 統廃合審議会において熱心に議論を重ねてこられたものと敬意を表したいが

公共施設再編計画において最重要課題としていた延床面積の削減目標が達成されない。諮問した課題がすり替わった答申となっている。

諮問:「小中学校の適正規模に関する基本的な考え方と適正化に向けた具体的な方策」

答申:「これからの学校教育のあり方及び小中学校の望ましい規模・配置について」

質問3 議会が中学校は1校と提言したものを、「40年後に検討の可能性が生じる」と言い換えて答申するのはいかがなものか。とても残念に思う。

将来の児童数は推計値を使っているが、少子化の進行はさらに進んでいる。現実には10年後に中学校は1校、クラスの数は5クラスとなるのではないか？

教育大綱は2019年度から2028年度までの10年間だが、社会情勢の変化に応じて見直しを行なうとある。2015年に策定した「小矢部市人口ビジョン」を基に作成した推計を使って最終答申をしている。2週間ほど前に「令和2年国勢調査人口速報」が発表されているが、平成32年の国勢調査に基づいた推計はどうなっているのか？

質問4 教育長にお尋ねします。

今回の統廃合審議会の最終答申をまとめるに際し、教育大綱と統廃合審議会最終答申との整合性を図ることを前提として、短期的な財政負担の小さいことが最も肝心な点だとし、長期的な財政負担の優劣を判断基準にしていないのではないですか？

質問5 教育長にお尋ねします。

蟹谷小学校と津沢小学校を1校に、蟹谷中学校と津沢中学校を1校にする

と答申しているが、蟹谷地区に学校が無くなってしまわないか？

小学校は公民館活動においても、地域の伝統や文化の継承においても大切な

施設です。地域の理解は得られるでしょうか？

質問を先に進めます。

令和2年に入ってから、社会の情勢が大きく変化します。

令和2年3月2日 新型コロナウイルス感染症の感染対策 全国一斉休校
教室内の密を避けるためには1クラスに25人

令和3年3月31日 改正義務教育標準法が成立

学級編成基準の改定 35人学級へ、富山県は令和5年に
GIGAスクール構想の前倒し実施、

タブレットや電子黒板、デジタル教科書、ICT支援員

令和3年2月 小矢部市小中学校施設長寿命化計画の策定
石動小学校は築7年
大谷小学校は築54年
東部小学校は築60年
蟹谷小学校は築41年
津沢小学校は築40年
石動中学校は築36年
大谷中学校は築36年
蟹谷中学校は築31年
津沢中学校は築29年
築40年で長寿命化改修、築60年で大規模改修、築80年で改築を計画

令和3年4月27日 小矢部市総合教育会議
* 令和3年度小矢部市教育委員会の重点施策について
コロナ対策、学級編成基準改定、新学習指導要領、英語教育
* 小中学校再編推進計画策定の再開
* 部活動の在り方検討委員会の設置

令和3年6月3日 教育再生実行会議から第12次提言
「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について」

総合教育会議について質問致します。

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正」により、平成27年4月1日に施行されています。

総合教育会議の趣旨は、「地方公共団体の長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的とする」とあります。

総合教育会議は今回の答申を受けて、小中学校再編推進計画の策定を再開するようですが、これまで議会が提言をしてきたものも民意であります。そういった議会の声を受けて質問させていただきます。

公共施設再編計画を策定した当時、将来の財政負担を考えてきました。本年2月に策定された「小矢部市小中学校長寿命化計画」によれば、古い建物を20年ごとに改修し、80年で改築するとなっています。何度も改修することは合理性がないと考えます。また、そのことはこれからの世代に将来の負担を先送りするものであります。今回の決断がとても大事であることを申し上げておきたいと思っております。それぞれの地域に暮らす市民の郷土愛や伝統文化の継承など、社会教育活動の点においてもしっかりと検討していただきたいと考えています。公共施設の床面積を減らし、持続可能な小矢部市に暮らすことで、限らない郷土愛に育まれた、たくましい子供たちが将来の小矢部市を担ってくれることを願っています

す。

質問6 本年3月の定例会において、桜井市長は誠流の代表質問に対して「**本年5月の教育再生実行会議の指針と新たな人口推計を検証して、年内の計画決定、適宜計画の見直しを行なう**」と答弁されています。私自身も予算特別委員会において同様の質問をさせていただきました。

4月27日開催の総合教育会議では小中学校再編推進計画の策定に着手する方針のようですが、GIGAスクール構想の前倒しや学級編成基準の改定、人口推計の見直し等を含めて検討する時間が必要だと思います。

これだけ社会情勢が変化しているのですから、小中学校再編推進計画の策定を 急ぐ必要は無いものと考えます。桜井市長の所見をお尋ねします。

質問7 これまで議会に対する答弁は、本年5月に発表される予定の「教育再生実行会議からの指針」と「最新の人口推計」を検証すると答弁されております。

今月3日に教育再生実行会議から「ポストコロナ期における新たな学びの在り方」(第12次提言)が発表されています。内閣府のホームページからダウンロードして内容の確認していますが、一部を抜粋して紹介すると「**ニューノーマルにおける新たな学びに向けて～データ駆動型の教育への転換～(コロナ禍を契機としたICT活用の取組み)**」とあります。国の指針も定まらないのが現状ではないでしょうか。

議会は小中学校の統廃合について、議論を深める機会がありませんでした。

是非、今後は議会との集中的な協議の機会を持つようお願いしたいのですが、いかがでしょうか？

中心市街地の活性化について質問いたします。

駅周辺整備事業は当初の計画が終了し、中心市街地が賑わいを取り戻すための土台ができたものと思います。本当のにぎわい創出はこれからであり、その**にぎわいを作り出すのは、そこに暮らす市民であり、そこを訪れる人々**であります。様々な経済活動が活発に行われるよう、二の矢三の矢を放っていくべきだと考えます。

空き店舗助成などの制度はあるものの、まだまだ空き店舗だらけであるし、行き交う人の数も少ない現状です。第二次ルネサンス戦略ではKPI指標を持っていたと思う。

質問8 現状分析と課題、その対策についてどのように考えていますか？

質問9 ご当地土産や名物菓子を売り出す取組みに対する支援はあるか？
コロナ対策で疲れ切っていませんか

質問10 頑張っている人を応援していますか
頑張ってくれる人の育成や発掘を忘れていませんか

質問11 石動駅の駅南にある広大な市有地を安価に貸し出すことは、今後の期待も含め大いに賛成しています。今後、駅北にある「石動駅駐車場」・「まちなか駐車場」などの市有地において、駅南同様の提案があったら検討しての良いのではないか？

質問12 当然内容次第と回答されると思うが、望ましい内容の具体例を問う。

おわりに

私は市町村合併が叫ばれた時、単独市制を選択して良かったと思っています。他市が羨むような柔軟性と素早い対応が、市民の満足度に繋がるわけですから、議論すべきは議論し、協力し合う部分は協力して、「**住んでみたい・住み続けたい・住んで良かった**」と市民が感じてくれる小矢部市を創り上げていくことが最終目標であると申し上げて、6月定例会の質問を終わります。